

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成25年7月4日 (2013.7.4)

【公開番号】特開2011-162664(P2011-162664A)

【公開日】平成23年8月25日 (2011.8.25)

【年通号数】公開・登録公報2011-034

【出願番号】特願2010-27076(P2010-27076)

【国際特許分類】

C 0 8 F 220/10 (2006.01)

C 0 9 D 4/00 (2006.01)

C 0 9 D 7/12 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 220/10

C 0 9 D 4/00

C 0 9 D 7/12

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月22日 (2013.5.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

炭素数 6 以上の脂肪酸からなる脂肪酸アミド構造と、アルキレンオキサイド構造と、アクリロイル基またはメタクリロイル基とを有する活性エネルギー線硬化性化合物 (A) と、

前記活性エネルギー線硬化性化合物 (A) とは異なる活性エネルギー線硬化性化合物 (B) と、

を含有する活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 2】

前記活性エネルギー線硬化性化合物 (A) の脂肪酸アミド構造は、炭素数 6 以上の脂肪酸 (a 1) と水酸基を有する第 1 級または第 2 級アミン (a 2) を反応させることにより形成されたものである、請求項 1 記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 3】

前記活性エネルギー線硬化性化合物 (A) の脂肪酸アミド構造は、炭素数 12 以上の脂肪酸 (a 1) と水酸基を有する第 1 級または第 2 級アミン (a 2) とを反応させることにより形成されたものである、請求項 2 記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 4】

前記活性エネルギー線硬化性化合物 (A) の脂肪酸アミド構造は、炭素数 12 ~ 24 の脂肪酸 (a 1) と水酸基を有する第 1 級または第 2 級アミン (a 2) とを反応させることにより形成されたものである、請求項 3 記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 5】

前記活性エネルギー線硬化性化合物 (A) は、前記水酸基を有する第 1 級または第 2 級アミン (a 2) の水酸基に由来するウレタン結合を介して、アクリロイル基またはメタクリロイル基が導入されている、請求項 2 ~ 4 記載のいずれか 1 項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 6】

前記ウレタン結合は、水酸基を有する第 1 級または第 2 級アミン (a 2) に由来する少なくとも一部の水酸基を、アクリロイル基またはメタクリロイル基とイソシアネート基とを有する化合物 (a 3) を反応させることにより形成されたものである、請求項 5 記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 7】

前記アルキレンオキサイド構造が、水酸基を有する第 1 級または第 2 級アミン (a 2) 由来の水酸基とイソシアネート基とを有する化合物 (a 3) との反応により生成してなるものか、又は脂肪酸 (a 1) と水酸基を有する第 1 級または第 2 級アミン (a 2) との反応により生じた脂肪酸アミド中の水酸基を有する第 1 級または第 2 級アミン (a 2) 由来の水酸基に付加されたアルキレンオキサイド鎖であることを特徴とする請求項 6 項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 8】

前記水酸基を有するアミン (a 2) の水酸基が 2 個であることを特徴とする請求項 2 ~ 7 のいずれか 1 項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 9】

前記活性エネルギー線硬化性化合物 (A) は、アクリロイル基またはメタクリロイル基を、平均で 1 分子中に 1 個よりも多く有するものである、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 10】

耐指紋性硬化塗膜形成用である、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項記載の活性エネルギー線硬化性組成物。

【請求項 11】

ガラス、プラスチック、金属、木質部材および紙の中から選ばれる少なくとも 1 つの部材の少なくとも一部に、請求項 1 ~ 10 のいずれか 1 項記載の活性エネルギー線硬化性組成物から形成される硬化塗膜が設けられてなる、硬化塗膜付き部材。